



赤岡中学校
たけうち しょう 議員(3年)

Q 赤岡中学校では、生徒会で校内や香宗川、吉川海岸などの地域清掃ボランティアを行っています。ごみの不法投棄をなくすため、看板の設置をしてはどうでしょうか。

A 市では、5人の市民の方に環境監視員をお願いし、毎月、吉川海岸や香宗川、三宝山などの重点箇所をパトロールしてもらっています。パトロールごとに、いろいろな家庭ごみが捨てられていることを確認し、ひどい箇所には警告やポイ捨て禁止の看板を立てるようにしています。

そこで一つ提案ですが、例えば、赤岡中学校をはじめ各学校の生徒さんに、ごみの不法投棄、ポイ捨て防止のポスターをつくってもらい、それを看板にして不法投棄がひどい場所に設置してはと考えています。ごみの不法投棄、ポイ捨ては、一人ひとりのマナーの問題です。不法投棄を防ぐには、多くの方のご協力がないとできません。今後とも皆さんのご協力をよろしくお願いします。(市長)

Q 南海トラフ地震や津波から、私たちの命を守るために、香南市ではどのような対策を考えていますか。また、地震や津波のときは、近所や地域で助け合うことが必要になってくると思いますが、日ごろから近所同士で助け合ったりする仕組みづくりをしていますか。



吉川小学校
かたおか まりん 議員(6年) 鎌倉安里 議員(5年)

A 市では、南海トラフ地震の発生に備え、市民の命を守る対策として、さまざまな取り組みを行っています。津波から身を守るために、津波避難タワーの建設や避難道の整備を進めています。

また、地震の揺れにより家具が倒れたり、家が潰れてしまうと、押しつぶされて命の危険につながることもあるため、家具の固定や家の耐震補強、ブロック塀についても避難場所まで避難するための道路に面し、危険な状態になっている場合は、その取り壊し費用などに対して補助金を出す対策を行っています。

命を守り、命をつないでいくためには、自助、共助、公助の3つの助けがそれぞれ必要になります。自分で自分の命を守ることを「自助」、質問の近所や地域で助け合い、協力し合って災害を乗り越えることを「共助」、市役所や消防、自衛隊など公共機関が行う救助や物資供給のことを「公助」と言います。南海トラフ地震など大規模な災害が発生してしまうと、市役所や消防、自衛隊の活動は、被害が大きい場所の救助などに集中するので、地域における自助や共助はとても重要です。

市では、地域における共助の中心的存在となる、自主防災組織の設立を進め、地域の人たちと一緒に避難所運営マニュアルの作成や防災訓練などにも取り組んでいます。今後は、さらに地域が一丸となれる取り組みが必要と考えています。皆さん一人ひとりが災害に対する知識を学び、家族や友達と非常時の持ち出し品の確認をするなど、南海トラフ地震に備えてもらいたいと考えています。

(防災対策課長)



香我美小学校
かわの りゆうせい 議員(6年) 西村俐音 議員(6年)

Q 香我美小学校は、工事をしたことで、遊具が減りました。代表委員会でも、ブランコを設置してほしいという要望がでています。遊具を増やすことはできませんか。

A 遊具には安全に遊ぶための基準があります。例えば、遊具の一部に子どもの頭や首が挟まる大きさのすき間や穴が開いていたり、紐が引っかかるかもしれない引っ張りがあったりすると、それが原因で事故が起こるかもしれません。このような遊具は、安全に遊ぶための基準に合っていないということで使うことはできません。

香我美小学校の大規模改修工事の時に、安全基準に合格していない遊具は除けられました。

市内の小学校でブランコのある学校を調べると、香我美小学校以外の小学校には設置されています。遊具は子どもの成長にとって大きな効果や働きを与える大切な遊び道具です。ですから、要望に沿ってブランコを設置していきたいと思います。(学校教育課長)



夜須小学校
しまむら はると 議員(5年) 松尾康晴 議員(5年)

Q 夜須町の特産物を知ってもらうために、ポスターやインターネットをさらに活用して、広める活動をしたいのですが、どうすればいいでしょうか。

A 香南市にはたくさんの特産品があります。夜須町には、「エメラルドメロン」「フルーツマト」「ルナ・ピエナ」というスイカ、「シイラ」や「長太郎貝」などの特産品があります。この特産物を多くの人に知ってもらうために、ポスターを貼る、テレビで宣伝するなどのさまざまな方法がありますが、インスタグラムやフェイスブックといったSNSを使って広まっていくことが多いです。例えば、香我美町の西川花まつりや岸本チューリップ祭りなども、そこへ行った人がその景色や花を見て、感動して、写真を撮って、SNSへ載せて、それを人が見て行くという風になっていて、おいしいものとか、すばらしいものに接すると、それに接した人が自然と宣伝してくれるのが今の状況です。

皆さんが香南市外の人たちに「私たちの住んでいる夜須町にはこんなすてきな特産品があるんだよ」と言うこともすごい宣伝になるし、こうやって地元の特産品についての質問があること自体が宣伝にもなってきますので、そんなことを一つ一つ積み重ねていければと思います。(市長)

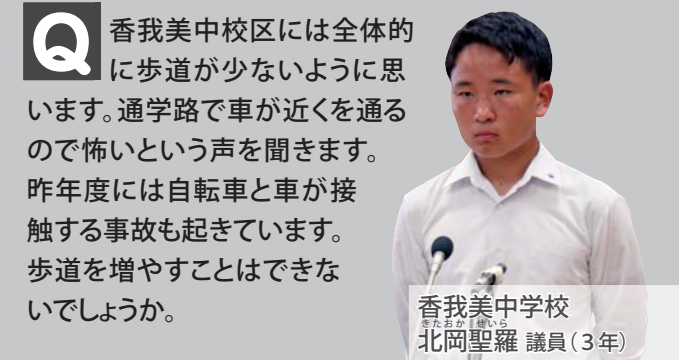


野市東小学校
かわの りゆうせい 議員(6年) 楠瀬優空 議員(6年)

Q 塩谷海岸には、いろいろな生き物やサンゴ礁などもあって、磯遊びもできる自然が残っていますが、自然を保護する活動などしているのでしょうか。

A 塩谷海岸や大手の浜などは県内でも有数のサンゴ生息地として、地元の人たちで組織する環境を守る団体などの長年の努力により保護されてきました。しかし、10年くらい前にサンゴを食べる「オニヒトデ」がたくさん発生しました。市は9年前からサンゴを守るため「オニヒトデ」の駆除を始めました。また、毎年YASU海の駅クラブが大月町にある黒潮生物研究所と協力してサンゴがどのように分布しているかの調査を行っています。今後も「オニヒトデ」などサンゴを食べる生物がどれくらいいるかを確認し、サンゴにとってよくないと判断したときは、すぐに駆除できるようにしていきます。

そのほかにも、手結から手結山沿岸の海で、海藻が生える場所にしてい活動をしています。(環境対策課長)



香我美中学校
きたがき しょう 議員(3年)

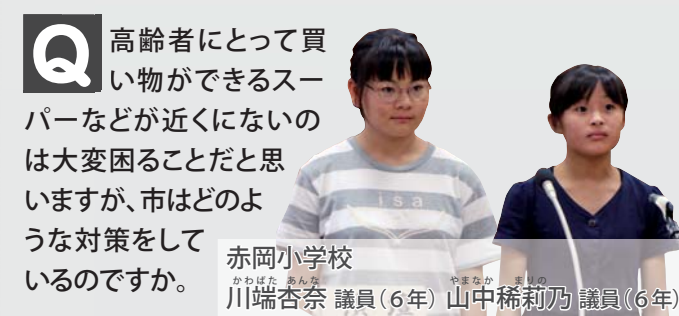
Q 香我美中校区には全体的に歩道が少ないように思っています。通学路で車が近くを通るので怖いという声を聞きます。昨年度には自転車と車が接触する事故も起きています。歩道を増やすことはできないでしょうか。

A 香我美中学校周辺で歩道のある道路は3つあり、1つは学校の南側の道路。東側に隣接している道路の一部と信号のある交差点から南への道路の2つで、歩道は二車線の道路にしかないのが現状です。

道路幅を広げたり、歩道をつけるには、広げようとする土地の所有者に協力していただかなくてはなりません。歩道をつけるには少なくとも幅が2メートルほどの長い土地が必要で、家があれば取り壊して別の場所に移転することになります。それには、まず、住んでいる方が移転しても良いと承諾してもらわないといけません。家にもよりますが、取り壊して別の場所に新たに建てることになるため、たくさんの費用がかかり、限られた予算の中では難しくなります。

今後は、危険な箇所には危険を知らせる看板をつけたり、道路の道幅に余裕があるところに、緑色や青色にした歩行者通行帯を設置することを検討していきます。

(建設課長)



赤岡小学校
かわばた 杏奈 議員(6年) 山中稀莉乃 議員(6年)

Q 高齢者にとって買い物ができるスーパーなどが近くにないのは大変困ることだと思いますが、市はどのような対策をしているのですか。

A 市では現在、高齢者の方の買い物や病院へ行くことのお手伝いにいろいろな取り組みをしています。例を挙げると、市営バスがありますが、75歳以上の方は半額で乗車できます。そのほか、香南市社会福祉協議会が行っている「リフレッシュ移動サロン」という乗り合いで買い物に行く送迎の車を出す取り組みがあります。また、送迎付きの介護予防教室で「お達者教室」というのがあります。この帰りにスーパーに立ち寄りてお買い物をすることができるといったサービスもあります。

また、市では、住民参加で高齢者の移動・外出の支援ができるような取り組みを進めており、車に乗れなくなっても、病院へ行ったり買い物をしたりすることに、あまり不自由を感じない、そんな町にしていきたいと考えています。

(市長)